

## 実践報告 札幌市立もみじの森小学校

### (1) 研究内容

研究課題：子どもの権利に関わる学習活動

- 子どもが「自分の権利」について正しく理解する。
- 他者を尊重し、思いやりの心をもって仲間と接する。
- 問題を自らの手で解決する。

などを学ぶ中で、「自分を大切にすること」「仲間を大切にすること」について、自ら考え、責任をもって行動することができる力を育てる。

### (2) 実践の内容

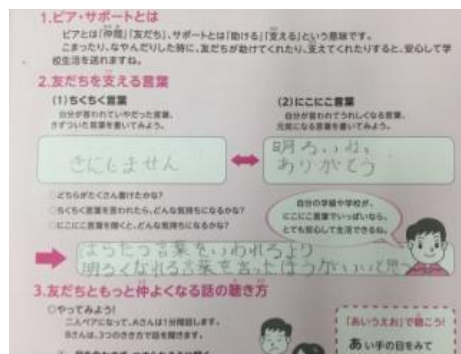
【実践①「学級活動の授業実践『卒業生から在校生へ「いじめ防止」のメッセージを贈ろう』（6年）」について】

○ねらい

- ・ 在校生に「いじめ防止」の大切さを伝える。
- ・ 自分たちの取組といじめ防止の大切さが伝わるようなメッセージと、その伝え方の工夫を考え、実践する。

○学習内容

- ・ いじめ防止のビデオメッセージを考える学級会。これまでのいじめ防止キャンペーンを振り返りながら、在校生に伝えるメッセージを考える。また「子どもの権利条例パンフレット」を活用し、「安心して生きる権利」や「参加する権利」についても学んでいく。



【実践②「『からだ・こころ・いのちの学習』授業実践『自分の思いの伝え方』（6年）」について】

○ねらい

- ・ 相手の立場を尊重しながら、互いに折り合うことの大切さを理解する。
- ・ お互いを尊重しながら生活していくことのできる態度を身に付ける。

○学習内容

- ・ 断ることが難しかった体験や断ったことでトラブルになった経験を話し合い、互いを尊重し、共に生活していくためにどのようにすればよいかを学ぶ。



【実践③】「道徳『ありがとうの気持ち』[2-(4)感謝]授業実践」  
について

○ねらい

- ・ 友達との関わり方を考え、相手に感謝しようとする心情を育てる。

○学習内容

- ・ 「ありがとう」の言葉の大切さを知り、仲間とのこれまでの関わり方を振り返ることで、人との関わり方を考える。



【実践④】「児童会活動『いじめ防止キャンペーン』」について

○ねらい

- ・ 子どもたちが自主的にいじめ防止の活動計画を作成し、実践していく。

○学習内容

- ・ 児童会推進局で提案された「いじめ防止キャンペーン」を受け、学級ごとにいじめ防止プログラム（活動）を考え、実践する。



(3) 研究のまとめ

①成果

一連の活動を通して、一人一人を大切にしていこうという意識を高めることができた。授業実践においては、本校の学級活動、道徳年間指導計画や『からだ・こころ・いのちの学習』年間指導計画に位置付け、計画的な取組につなげることができた。また、児童会推進局によるキャンペーンは、子どもにとっても「自分たちで実践するんだ」という意欲をもち、「互いを思いやること」について学ぶことができた。これまでは受け身だった子どもも、自分たちで考えたことを実践する中で、「自分から取り組む」という姿に変容してきた。

②課題

自分たちが学び、実践してきたことが、「人権」を大切にしていることにつながっているのだということをも他学年にも広げていきたいと考えている。今年度の実践を基に、学年の系統を意識しながら年間指導計画を見直し、次年度につなげていきたい。

③提言「人権教育のすすめ」

今年度より子どもの権利条例パンフレットが改訂され、4年生に配付された。このリーフレットは読むだけではなく、ワークシート形式のページがあり、教師にとっても子どもにとっても取り組みやすい内容となっている。まずはこのパンフレットを使用することから始めるとよいと感じた。次年度以降もぜひ活用したいと考えている。